

## 第1回梯川水系流域委員会 議事要旨

### 【開催概要】

■開催日時：令和2年11月13日 14時～16時

■開催場所：金沢河川国道事務所 2階会議室

### ■議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 出席者の紹介
4. 設立趣意、規約
5. 委員長の選出
6. 議題
  - (1) 梯川水系流域委員会の進め方
  - (2) 梯川水系河川整備計画の点検
  - (3) 梯川直轄河川改修事業 事業再評価
7. 閉会

### 【議事結果】

#### 設立趣意、規約

- ・設立趣意、規約が了承された。

#### 委員長の選出

- ・辻本委員が委員長に互選された。

#### 議事

#### (1) 梯川水系流域委員会の進め方 (資料3)

##### [委員]

災害が多い中、河川整備計画の点検が5年に1回の評価では心細い気がする。スパンを短くしてはいかかがか。

##### [委員]

形式的に5年に1回の評価となっているが、課題が生じた場合等は事務局と相談し、臨機応変に流域委員会を開催して検討するものと考えているが、事務局はどうか。

##### [事務局]

社会情勢の変化等があれば、5年に1回に拘らず開催したいと考えている。

#### (2) 梯川水系河川整備計画の点検 (資料4)

##### [委員]

点検の視点に地域の意向とあるが、点検資料には特に記述がない。整備計画策定時は丁寧に住民アンケートにより意見集約をしていたが、点検ではどうか。

##### [事務局]

地域の意向について特化した資料がないが、減災対策協議会を設置しており、その会議の中で流域

内の市町からご意見を頂いている。また、P18にて紹介しているが、梯川分水路整備では、住民の方からアンケートによりご意見を頂き、それを反映しながら整備を行うなど、事業を実施する際に地元の意見を伺って実施している。

[委員]

堤防整備率 50%という数字だけ見られた場合、他河川に比べ低いと思われる。昨今、降雨量が増えている中、さらに整備のスピードを上げることは考えているか。

[事務局]

河川整備計画に位置付けられている堤防整備の進捗状況でみると約 29%である。河川整備計画では 20 年間で直轄上流端まで堤防を整備することとしており、河川整備計画策定以降は計画通り進んでいると考えている。引堤整備のため、整備に手順があり速度を早めることが難しい現状もある。

[委員]

整備計画の点検においても、途中で住民意見を聴取することについても検討して欲しい。

[委員]

国交省で作成している広報「かけはしがわ」により、事業の進捗等を住民に説明しており、その広報により、住民から意見を伺うこともあるため、引き続き広報活動をお願いしたい。

[委員]

梯川の整備計画では堤防整備を進めていくのが特徴である。一方で内水被害が発生しているが、堤防整備等により内水被害が減少するのか。

[事務局]

堤防整備の他、河道掘削により梯川の水位を下げています。河道の水位が下がることにより、内水被害についても減少すると考えています。

[委員]

河道の水位を下げることで内水被害軽減につながることを丁寧に説明していく必要がある。

[委員]

天満宮の内部の排水計画はどうなっているのか。また、天満宮の輪中堤の高さは完成堤か。

[事務局]

天満宮内の輪中堤の内水対策として、水門、排水ポンプの整備を実施した。堤防は完成堤である。

### (3) 梯川直轄河川改修事業 事業再評価 (資料5)

[委員]

点検資料の説明でもあったが、洪水対策だけでなく環境整備も実施しているが、河川改修事業の中で環境整備事業を行っているのか。事業再評価に反映できなくても、河川整備計画の点検の中で検証していく必要がある。

[事務局]

環境整備事業は実施しておらず、河川改修事業の中で多自然川づくり等として実施しているものである。このため、事業再評価は河川改修事業のみを対象としている。環境整備の効果等について

は、広報活動の中で意見を収集し、事業に反映していきたい。

[委員]

環境整備については CVM を用いて算出した便益を考慮しても良いのではないかと。事業全体としての効果を評価することは大切であると考えている。

[事務局]

頂いたご意見については、上局に伝えたい。

[委員]

事業再評価とは別で、今後の河川整備計画の見直しの中で議論していくことになると思うが、被災リスクが高い場所からの住居の移転の促進等、社会的な動向等を考慮してもいいのではないかと。

[委員]

河川整備計画の見直しについて関連してくる事項だと思う。事業再評価では、社会情勢の変化はあるものの事業の重要性は変わらないという整理となる。頂いたご意見は今後の流域委員会で議論していけるようにしたい。

[事務局]

流域委員会の中で引き続き議論していきたい。

○事業再評価については、原案の通り、事業継続が妥当であると審議を頂いた。

また、12月に開催予定の北陸地方整備局事業評価監視委員会に審議結果を報告することを確認した。

以 上